

特17-723



1200500786880

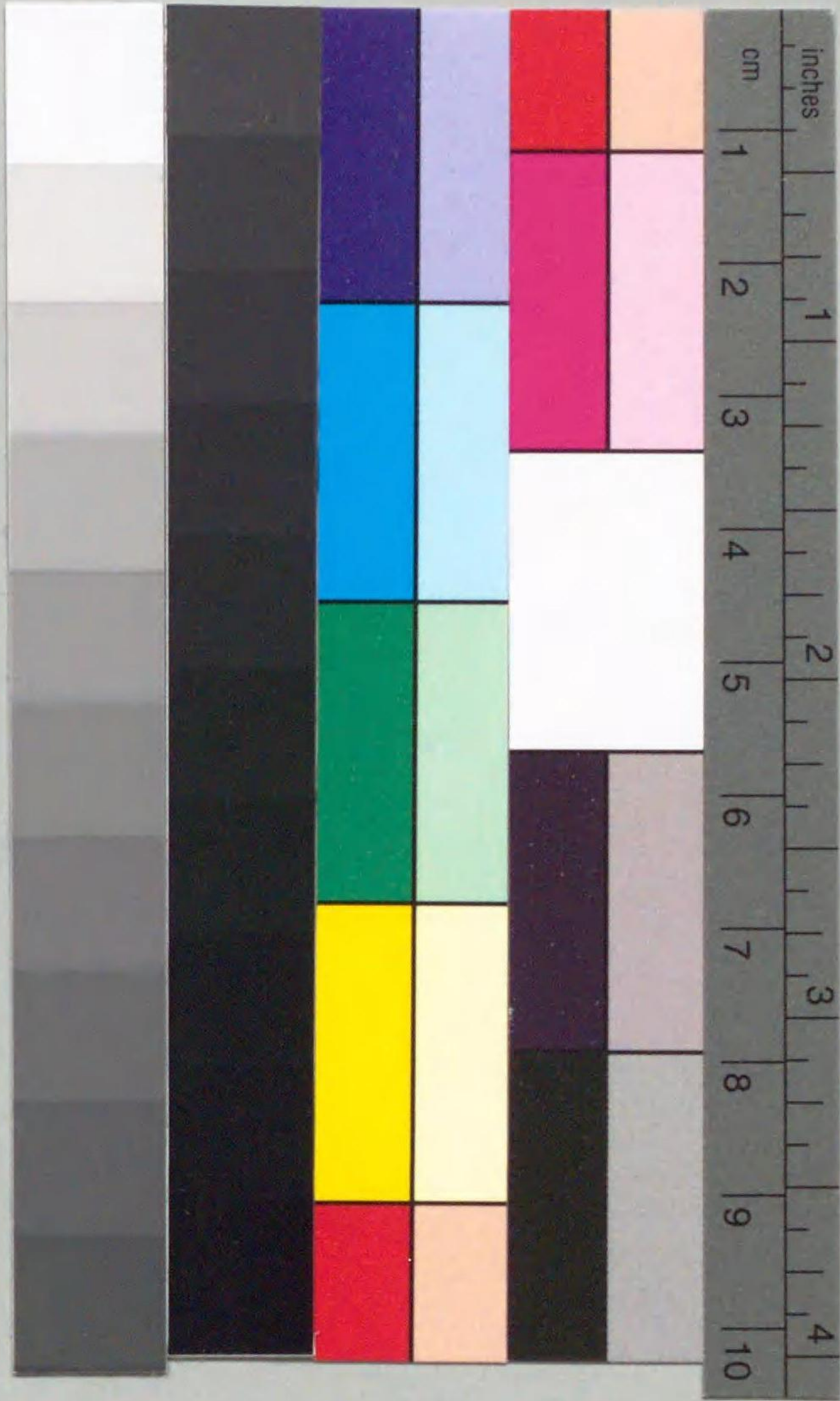
4
575

干河岸貫一編輯

少年教誨

明治十九年四月刊行

編輯者藏版



少年教誨

目次

緒言

- 〔一〕 智を磨かざるへからざる事
- 〔二〕 武田信玄の格言
- 〔三〕 志の高かるへく氣の低くかるへき事
- 〔四〕 危険なる遊戯を避くへき事
- 〔五〕 幼年の時より信義を重んずへき事
- 〔六〕 耐忍勉強又習熟すへき事
- 〔七〕 節儉を貴ふへき事
- 〔八〕 師友に乏志きをのみ歎すへからざる事

以上

明治十九年四月八日内務省贈付

少年教誨緒言

余曩に浪華に在りしころ日本立志編を撰述し又女子善行録といへる一書を編製したることあり其の文の甚だ野鄙にして讀むに堪へず假名の誤りなども殊の外多かりしが其等の書を編みたる目的は世の中に幾分か益するところあらんことを望み無用の書たるの嘲りに遠ざからんことを欲するのみよて字句の整ひざるを假名遣の正しからざるの如きハ深く心を留めず大方の是正を仰ぐつもりにてありしが幸にして日本立志編の如きハ讀む人の讚賞を得て某々二三縣にてハ小學校の教科書又加へられたるもありとか聞けり實ハ是れ余が宿望を満足し世の人の脩身のことに意を注ぐ媒ちどもあらんと深く喜びたりしその後復編輯せんとするものもありしが兎角に俗事の繁きに妨げられその志

を果さず今年の初めより少しく間を得たるも際し二三の社友が
余に勧めて曰く目下少年教會の設け各地も起る然れども事創始
に屬するを以て講話を爲す人も少年子弟の心得となるべき事柄
を史傳に徴し古人の嘉言善行を集めたるものあきを以て其の材
料も乏しく又少年子弟をして讀ましむる書も乏しければ其等の
用に供すべきものを編述せよと余固より淺陋寡聞にして敢て其
事を擔當するも足らずと雖ども苟くも世を益するの具とならば
左までの用を爲さるにもせよ風月を吟詠し花鳥を嘲罵する如
き間事業にまさること萬々なるべしと思へば筆にうかぶがまに
く書きつけたるを名けて少年教誨といふその記述するところ
或の少年子弟の心得ともなる所あらば余が喜び何事か之ふ志か
ん書して緒言となす

櫻所居士貫一識

少年教誨

千河岸貫一編撰

余茲に述ぶる所のもの之を總べ括りていへば少年諸君に告ぐとい
ふ題へても用ふるが然るべき様なれどもそれにて全篇のはなしが
一ついさとなりて讀む人も聞か人も倦み易すかるべければ余が心
浮ぶまゝを一齣づゝ書綴るべし

〔一〕 智を磨かざるべからざる事

玉の磨かざれば光りなし光りなければ石や瓦と異なることなし人も
智慧を磨かざれば愚かなる人となりて一生涯を送くらねばならず故
に智識を磨くといふことが第一の務めなり二歳や三歳の幼兒にても
之を利口だ、い、兒だといへば喜び馬鹿だといへるれば怒り啼くの愚
人と呼べるゝことを厭ひ賢者即ちかしこき人と稱へらるゝことを欲

する固有の良心なり然るも歳の稍長ずるも随ひて人ふかしこき人なりと譽めらるゝ者の少く愚かなる者なりと嘲けらるゝ者の多き何の故なりやといふに智識を磨くべき學問といふ砥礪を用ふことを怠るうらのことなり左れば此會も列なるどころの少年諸君の今の時が即ち學問も精を出してかしこき人となるも精を出さざれば愚かなる人となるとの二つの路いづれに向ふかを定むる大切のところなれば茲も述るところを善く聽かれよ

學問を勸むるも昔しより勸學の文などいふものあり其の外種々ある中よ於て今の支那の唐の代よて名高き韓愈といふ人が其の子の符といふ者よ示したるものゝ意味を和譯して諸君よ語らん其文意は曰く凡そ木の材木として用ゐらるゝもの大工木挽といふものゝ之を伐り之を削るよ依りてなり人の能く人となるはその身も學問あるよよ

りてなり學問の之を勤むるとき其の身も在る第一の實となれども勤めざれば全く空虚にて「カラツポ」なりまづ學問の作用の如何なる者といふことを知らんとすれば世の中よかかこき人とおろかなる人とおれども其の初めの別段よかかたりたることなく同じことなりその學ぶこと能いざるよよりて遂にその居る場所も住む家も大層よ違ふことよなるものぞや軒並びの家ありどちらの家にも赤兒が生れたるふその乳房を吸ふことも「チヨチ」「アワ」を覺ゆることも笑ふも啼くも二軒の兒よいづれうのりない少し長くなりて此の兒どもらぐ聚りて遊び戯ふるゝありさまの金魚や緋鯉など水の中よ行列をして泳ぎ戯ふるゝと殊ならずどれも同じ様よ見えるさて年の十二三よもなると行儀作法も覺え少しづゝの書物も讀み習ひ手近き物の理の分りはじむる様よなりしもの頭角をあらはすよて並の小兒より立

踰たるより行儀作法も知らず物の道理も知らず字も習ねば書物の
 一行も讀めぬ様な兒とい漸く疎遠になりてあまり一緒も遊び戯ふる
 こととをせぬそれが最早二十歳ともなればますます人品から行跡ま
 て相へだりて澄みて清らかなる溝と濁り汚れたる下水ほど段
 式が違ふ様あなり三十にして骨髄成り儼然としたる丈夫となる年に
 及びて乃ち一人の方の龍とありたる如く高く飛び上りて律派な官
 員となるより又の會社の役員となるより立身出世をなし一人の方の
 猪も同様ふて人力車を挽くもあれば馬丁となるもあり立身をしたる
 人の結構な邸宅を構へ多くの雇人召使の者よりしづかれ世間の人に
 も羨み慕われ車夫馬丁の僅ふ衣の寒を防ぐ足らず食の飢を支ふる
 ことも覺束あきほどなるもありさて初めの左まで違ねぬものが何故
 に龍と猪ほどの違が出来たるかといへば學ぶと學ばざるとの二ツの

違から生じたるありさまお外ならず金や壁といふもの世の中の貴
 き寶なれども費し用ひて貯へ置くことうたし學問の之を己が身も藏
 めて命のあらん限り如何ほど用ひても盡くすることなし左ればかし
 こき人とおろかなるものどの父母の利口馬鹿と富めるも貧しきと
 の拘りらず百姓の家も生れても關白となりし人もあり華族の家も
 も身代限りとなるもあり世の浮沈のさまなり左れば人として學
 問をなし智識をみぎ古今のことお明かあらざれば猶ほ馬牛襟裾と
 て馬や牛として人間の衣服を着けたると同じことおて動もすれば不
 義も陥るの行ひを爲す況や名譽とて世の人おその名を知られ譽れを
 受くることとなるべきやゆるに日夜も此事を忘れず光陰を惜みて學
 ぶべしとあり左れば此の席も列なる少年諸君の中にも學ぶことを勉
 めて三十歳のころお龍の如く高く飛び騰り立身出世をなす人もある

べしその學ぶことを嫌ひて唯無益の月日を送ることを惜し、とも思はず今日も紙鳶を放ちて一日を過ぎ明日の獨樂を闘ひして一日を暮らしそのうちに二十となり三十となる時、猪と同様のありさまあて終ららん上等紳士も車夫馬丁も生れたる時にも三ツや四ツの幼稚の時にも別よりりたる所なし十二三歳ころより次第に頭を擡ぐるど否との別ちを生ずる者なれば諸君の年ごろの時が最も學び習ふことと勉めばげまねばならぬ時よてかしこき人となるもおろかな人となるも此うらの料簡次第にて定まる時なればよく聞分けて置らねばならぬ事なり

(二) 武田信玄の格言

武田晴信入道信玄といへば誰人みても越後の上杉謙信と川中島に戦ひたる昔の名将といふことを知れり信玄の申されたる言に人の學

問あるの木に枝葉あるが如し唯人の學問無くばあるべからず學問とて書物を読むばかりを云ふのあらず己れくぐ道に付て學ぶことを學問といふあり弓箭の家も生れたる人の大小上下共武功ある人よ近づき一日一ヶ條の事を聞くととき一月より三十ヶ條となる況して年中よていへば三百六十ヶ條の事を知らば去年の我等に今年遙かおまさるらん左るほどよ人々己れを捨て、人の善きことを取らんには耻をかくこと寡なかるべし假令一文不通のものなりとも此理も通じたる者を我の智者として馳走すべしと申されたり又信玄の申されたる言曰く人の兒童のころより知れるものなり先ず武邊物語(信玄のころの應仁已來戰國のたゞ中なれば武士の集りて軍の話のみなせしものにて武邊物語といふ等の話といふ之を今も直していへば經濟とか法律とかの話として云も妨げなかるべし)の席

に四人の童子あり一人の口を明き語る者の顔ばかり見て聞き二人目
 の耳を澄して些と俯ぶきて聞き三人目の語る人の顔を見て少しづつ、
 笑ひ意味顔し四人目の其物語を聞いて其席を退くなり箇様お色々あり
 てまづ始めのうか／＼と聞く童の後々々までも其心の如く如何に武邊
 場敷ありても跡先の辨へもなく似合ひしき家隸をも持たず異見をも
 受くるほどの朋友も持たぬものなり二番目に耳を澄して聞く童の後
 に横田備中原美濃、小幡山城、多田淡路、山本勘介などの如き武邊覺え
 の者になるなり三番目に話を聞きてニコ／＼と笑て面白がる童の後
 又武邊譽れの者お必ずなるといへども餘り過て權高くして人又惡み
 を得るものなり四番目又其座を立ち退く童の後には十人の中又八九人
 の臆病者なり云々と申されたりと左れば少年教會の講話をする時も
 講話する人の昔しの信玄の故智を襲ひて耳を澄して聞き又面白そ

ふお聞く人の必ずかしこき人と世間又名譽を得るお至るべく講話の
 内お隣りの席又居る者と密々話をなし又手て揺かしてわるさをし
 たり故おく席を立ち歸りしかと思へば又出て去る様なる人の成長の
 のち左までかしこき人になるまじと申すべければいづれも行儀よ
 くして講話する所お耳を傾ふけて聞かれよ
 又信玄の申されたる詞お最も少年の人々の手本とすべき言あり曰く
 凡そ人の生立又依て善くも悪くもなるものなり生れつきて善き意ろ
 ばせある者が老功の者お便りて弓箭の義の勿論一切善きことを聞か
 ば次第又行儀善くよろづお功者となるべし人の大小およらず七歳八
 歳より十二三歳まで又大名の子ならば善き大將の行儀作法を語り聞
 かせて育てたるか宜し小身ある者の大剛の者の武勇のはたらきを跡
 先蹈詰をしたることお語り聞かせて然るべし總じて人の心の十二

三歳の時聞入れて本付たることか一生の間失はず中にも聲の替へる時分か大切かり聲の替へる時分善き者お交へれば善く成り悪しき者お交へれば悪く成る者なり云々と申されたり左れば此教會に出席する人々の一生の間失へぬ様お學問を勤め行儀を正しくし悪しき者と交へらず善き友を持つことを望むことを聞入れられ所謂先入して主となることを大切とせらるべきなり

(三)

志の高かるべく氣の低くかるべき事

男兒と生れたる者の高くして大なる志を持つべし苟且も聊かのことを妬み僅かばかりのこを羨むの婦女子のことなり左れども氣の低くして己れより年の長けたる者を侮り又い家も在りてい父母兄弟の爲め外へ出でい師長のためい如何なる事を云付らるゝも是の賤き業なりとて厭ふことあるべからず今此の事に就て二三の例を引

きて申すべし

伊達政宗といふ名將の幼名を梵天丸といひたり五歳の時城下なる寺院に參詣し佛壇の不動尊を見て近習の士お問ていふ様われ何たる者ぞや最と猛々しき姿なり近習曰く是の不動明王と申して面相の猛しくおいしませども慈悲深くして衆生を救へせたまふと答へたり梵天丸之を聞て諸の武將とあるべき者の心得となるものなるぞと申されしとぞ梅檀の嫩葉より芬バしとい政宗の如き人の事なるべし左れば幼きより物事お意を留むることお好き標準なり
明智光秀の主の信長を弑せし逆臣なれども兎も角匹夫より身を起して大名となりたるほどなれば其志しの中々高く大なるものなり初め美濃の郷里を去りて浪人の身となり越前の東江川を渡りし時大黒天の像を拾ひたり是の福の神なりとて大ひお喜び家も歸り棚の上お安

置して朝夕これを禮拜したるも或人之を聞きさても芽出度福神を迎へられしものりな此福の神の則ち千人の司なり能々信々せられよといふ光秀之を聞て大に駭きさて此の大黒殿の千人の司なるや假令福神もせよ尋常の凡夫もてすら千人の司をする人多し侍たるものが出世を願ひて侍むべき神もあらずといひて取棄てたりと豊臣大閥秀吉の下賤より起りて應仁已來の亂を平治し武功も於て我國も其比類を見ざるほどの人なれば其志の高く大ひなりしこと言を待たざれども又氣の甚だ高うらず嘗て信長の家隸となりしころ朋友と夜話の時各々その志を述べたり中より或は大國の主とならんといふもあり又天下を取らんといふもあり戦亂の世の中のことなれば様々の事を云ふ者ある中秀吉の申されけるに我の今まで千辛萬苦して僅に三百石なり願ひく此上に又三百石を望むと申された

るもぞ人みな其望みの小なるを笑ふ秀吉重て云様各々の所詮届りぬとをいふものなり我の爲し遂ぐべきことを云故に六百石もならん日日夜夜寝食を忘れ奉公一途に心掛る故に我望の成就すべしと云われしとぞ氣のみ高くして爲し得べうらざる事をも爲し遂ぐべきが如き言を吐きつゝ何事も席上の空論となるもの所謂書生論もて高大の志ある人の却りて實着あして爲し得べき事を爲し遂ぐる工夫も油断をせぬものなり小學校に入りて下等一級も卒業せざる時大國の課程を卒へて學士となりたるべきの事を考ふるよりも一級を畢らば早く二級三級を卒へ下等小學の課程を終らば早く上等小學の學課を卒業せんと心掛け一步一步進むことを心がくるこそよけれ學問あても藝術も一足飛び上達することの出来ぬものぞ知るべし斯く云といへども其志しを高くして學校に入りて讀書習字を爲すも小學を卒

業したるを以て足れりとし中學の科程を卒れば是よて學問のせずと
も澤山なりと少しく學び得たるお安むずることなかれ
弘法大師が眞言宗を開きたる後お新義眞言を立て、祖師と仰がれ元
祿三年に興教大師の諡號を賜りたる覺鉸上人の肥前の國も生れた
る人よて其父の兼元まての代々武を以て稱せられ近郷近在の父老一
人として畏れ敬まらざるいなし覺鉸上人の兼元の三男なり幼けなき
時以爲らく世の中に我父ほど威光ある貴き人のあらじと然るも或時
租税を取立んか爲に官吏の巡回せることあり兼元の家も來りて頗る
威權を用ひ兼元の畏れ匿くれて出てざりけるもぞ覺鉸駭きてその兄
に問て曰く始め我の天下も父君ほど貴きものいなしと思ひしよ今日
其の然らざることを知れり何物か貴きや曰く官吏の我父よりも貴し
然らば官吏最も貴きや兄曰く然らず官吏の上も國守あり國守の上も

公卿大臣あり公卿大臣の上も天子の座ますあり天子も信仰まします
神あり菩薩あり菩薩の上も佛あり佛の無上尊といふ佛より貴きいな
し其佛に法報應の三身ありその教も顯教と密教との二ツありて佛の
三身の中法身を第一とし顯密二教の中に密乘を上とすと聞て覺鉸
上人然らば我れ佛道を修行して無上世尊たる佛位も登らんと出家成
道の大志をいだきたりといへり之を小學全科を卒業したりとて中學
校の科程を卒りしとかいふを以て得意あり學者顔をするおくらぶ
れバ雲泥の相違と申すべし左れば諺おも棒はど願ひて針ほど針ふと
いへば幼年の時よ日本の大學校を卒業したる上獨逸か英國にて博
士の免狀を授りるまで心を弛べず勉強すべしといふ志を起し而し
て毎日教授をうくる所の課業も怠らず千里の道も一步より始まる道
理にて光陰を惜みて學ぶことを勵むべきなり志を高く大にして氣を

低くもつべしといふの大畧畢る

〔四〕 危険なる遊戯を避くべき事

年若き間何事あても人の出来がたき事を爲して譽められんと思ふ
氣風殊も盛りなるものなり人の爲しがたしとする事を爲し手際よき
仕方なりと譽められんとする事は決して宜しからざる小あらず其の
心を以て學問藝術の力を竭さば一廉の効驗あるべし然れども其心を
一時の遊戯に用ひて或は自身を傷け又は他の人も危険の場合に至
らしむることあり是等の深く戒め慎みて危険なる遊戯の爲さぬこと
なり左れば前田利家の近習の侍が熟したる瓜を手放しおてその皮を
剥ぐを見てあな危し如何にも指を添えて剥ぐべきなり手放しよして
剥ぐとき翳るれば脈所を切るべし第一血をつけても見苦敷ことなり
手お念を入れ恠我あき様よするが主の前の勤といふものぞと誨へら

れ又柿の皮を剥ぐ小刀にて替のどころをえぐり取るどて度々恠我
をすするを見れば危きあどを食事などにするの手に際といふものおて
なく人品下りて見ゆるものぞと申されたりとか加賀大納言と稱し豊
臣家の國政を執るとき五大老の一人となり其の子孫は日本一の大藩
として加能越三州百萬石を領す此利家朝臣なればこそ斯く瑣末の事
よまでも心を留めて士を養はれたるものなれ今時開明の世よ生れた
るものにして身を重んずることを知らず危き遊戯をなさん殊にそ
の人品の下りたる舉動と謂ふべきなり

〔五〕 幼年の時より信義を重んずべき事

論語お大車輓なく小車輓なき何を以て之を行らん人信なければ立た
ずといふ事あり昔の車の講釋を茲も持出さんよりも手近く譬て云
へば大きある荷車にして眞棒なく人力車よして「バチ」おくバ荷を積む

ことも人を載せる事も出来ぬの云ふまでもなし若し人として信なく
 バ猶車に眞棒と「バチ」の闕けたるが如く男振のよくとも藝能のありと
 も此の社會に立ッことの出来ぬといふ意なり信の機能をならべ立て
 いへば澤山あれども口を以て人を欺らず人の見ず聞らざる所なりと
 思ひて苟且も人の見たり聞たりすることあらば耻かしき様なるこ
 とをせぬが言行忠信として表裏相應するものといふべし左れば嘘言
 を云ぬ人の見ぬ所にて横着をせぬといふことの幼年のころより能
 く仕習ひざるべからず苟且の事虚言を構ひ父兄其の他を欺くこと
 度々なれば成長してのち人をたぶらうし良からぬ行ひをも仕出すよ
 至るものなり父兄の目も觸れぬどころなればとて聊りの横着をはた
 らさし者も次第よその横着増長すれば他人の目を偷みて良からぬ所
 爲を試むるに至る左れば父兄の耳目に觸れざるを以て横着の心を生

じ父兄を口先にて欺くが即ち人を取ての車の眞棒と「バチ」どお比すべ
 き信を失ふはじめなり信を失へば社會に立つことの出来ぬの古しへ
 も今も同じことなり外國の商人が萬里の波濤を凌ぎ言語も通ぜぬ他
 國も出商をなし反物をどの二寸四方バウりの見本の裂を見せたるバ
 かりよて荷物の封のまゝよて取引を爲すの世界お信用を得たるから
 のことなり日本の商人の之と反對あて茶の色をつけ上茶と見せて賣
 込みなどして信用を失ふものあるの歎かひしきことおて未だ西洋の
 商人の如く信用を得ることの大切なるを知らざるものなり左れば昔
 しより名ある人の信義といふことを重んじたる例も多し今その中二
 ツ三ツの例を擧げて諸君よ示さん
 明智左馬助光春の初めの名は三宅彌平治といふ明智光秀の小姓を勤
 めたるものなり或時細川越中守忠興が光秀の邸にお來りしとき一人の

小姓椽頼の腰障子の立ちたる外を通るとて主人の目通りを通る時と
 同じ様又手をつき慇懃に拜伏して行きたり忠興之を見て光秀お向ひ
 貴殿の小姓共ハ律義なる輩よて候目通りにもあらぬ障子の外を通る
 に手をつき拜伏して通り候といひければ光秀聞てそれハ三宅彌平治
 と申す者ならん御呼び候へどある忠興彼の小姓を呼びて其の名を問
 へば果して三宅彌平治なり忠興深く感稱せしとぞ左れば山崎の軍敗
 ぶれ光秀討たれたりし時敵お路を遮ぎられ大津より坂本お赴く能ハ
 されば湖水に馬を乗入れ難おく唐崎濱に乘上げ坂本の城の天守より
 種々の名器を包みて縫り下だし心静かに自害せしハ當時の美談たり
 しのみならず今日までも人の稱歎する所あり斯る名將となる三宅彌
 平治おればこそ主人の目通りも障子の外も同様又禮を盡くし忠興ほ
 どの人をして深く感稱せしめたるものなるべけれ

森蘭丸ハ森三左衛門可成の子よして信長の寵愛殊に厚く十六歳おし
 て五万石の領地を興へられたりとぞ信長或時爪の延びたればとて之
 を取られしがやがて蘭丸を呼びろの爪の切すてたるものを取り棄て
 よと命ぜらる蘭丸之を拾ひ暫くして去らず何故又早く持往て捨てざ
 るやと問われければ蘭丸謹みて答へて曰く主公の切取られたる爪ハ
 兩の手の指の爪おれば拾個あるべきはづなるよ九ツならてハ拾ひ得
 ず今一ツ那處にか飛散たるものと存じて搜し求め闔らず時を移し候
 なりと白せしよぞ信長にも深くその心を用ゆることこの綿密なるを歎
 賞せられしとぞ又或時信長の刀を持たせ置うれしハ刻鞘の數をかぞ
 へ居たり信長ハ見ぬ振よて過ぎたり後に小姓のともがらを集め汝等
 刻鞘の數を言ひあてなん者お此の刀を興ふべしといわれければ皆お
 し料りて云ひけるに蘭丸ハさきに數へて覺えたればいひあつる人の

仲間よゝ入りぐたしと云信長るの信實おして人を欺りざるを感じそ
 の刀を蘭丸と與へられしと左れば斯く忠信にして瑣末の事も目を
 つくる人なれば年若きも老成の人お劣らず明智光秀が飯を食ひなが
 ら深く思慮するところある容子おて箸を取落しやゝありて驚きて之
 を取りたるを見て謀叛の企あることを察し信長を諫めて明智を刺殺
 さんといひけれども信長之を讒言と思ひ信ぜられず果して本能寺よ
 て明智が爲め弑せられたり其の事いさて置て森蘭丸の織田家お名
 臣多き中才敏の聞え高く十六歳おして五万石の領主となりしほどあ
 りて其の信を貴ぶこと其の注意の綿密なることい後人の手本となす
 べきものぞうし

松平伊豆守信綱の徳川四代將軍の時閣老として知慧伊豆と稱せられ
 徳川家三百年の間政權を執りたる中閣老を勤めたる人多けれども政

治に熟練なりし人の誰ぞといへば第一に指を松平伊豆守お屈す抑も
 この伊豆守信綱といふ人の大河内金兵衛元綱の子として伯父松平正
 綱の養子となり幼名を長四郎といふ四代將軍(家綱)の猶ほ襁褓お在る
 ころより御家人になされ御あそび相手として召出されけり大殿即ち
 三代將軍(家光)の寢殿の軒お雀の巢をくひ子を産みたるを竹千代君(即
 ち家綱)こなたより御覽じて長四郎よ取てまゐらせよと命ぜらる時よ
 長四郎年十一歳なれば如何おもかなふまじきよしを申す晝の驚きて
 飛去もやせんよく見置て日暮てこなたの軒お梯さして登り忍び行て
 どるべしとあり合ふ人々すゝめければ長四郎力なく之を承諾し日暮
 よ忍びのぼりやうくつたひ行けるが足踏損じて御庭の内よどうと
 墮ちたり三代將軍この音を聞き刀を執て障子を押開かるれば御臺所
 の燈火執りて出させ御覽するよ松平長四郎よてありけり大殿申さる

る様汝の何ゆゑ茲おの來れるぞ尋ねられしお今日御殿の軒又雀の
 兒を産みたるを見て餘りのほしさととり又参りて候と申すイヤノ
 汝が心より出たるよのわらじ誰がをしへけるぞと様々又問ひ詰られ
 けれども幾度もあらずひぬ年比にも似ぬ大膽者なればとて大きな
 袋の中におし入れて手づから袋の口を封じ柱お掛けられ事の由を
 からさまお申さいらんほどのいつまでも斯くて候へと申されたれど
 も猶前の詞を變へず夜も既に明けて大殿に平常の座を出させらる御
 臺所より早くも心付かせたまひ渠儂が幼き心よて身の悲しさをかへ
 りみず一言も竹千代君の仰せ付られたればなりと申さいることを深
 く感じ女房たちお申し付られ朝飯をたうべ候へとて賜り又袋の口を
 封じ置かれけり大殿晝ごろお入らせて又も推問せられしかどもつひ
 お其の詞屈せず御臺所のお詫言ありしかば左らば重ねてを慎めとて

赦されたり三代將軍御臺所お向ひ申されけるの渠儂が今の心あて生
 立たらんよの竹千代が爲おのならばなき忠臣よてこそわらめとて殊
 の外よ喜びたまひしとぞ
 思ふお尋常の小兒ならば譽めらるゝことよの自ら名乗り出べけれど
 も叱らるゝことおの成たけ自身よの免かれんとして共お謀りたる者
 の名までも残らず云ひ立つるものなるお長四郎の一言も若君の仰せ
 といはず仕損じたる上の罪を一身よ引うけ如何なる辛き目お遭ふと
 も詞を改ためざるの十一歳の時に於て天下の政を執りての殉死を禁
 じ由井正雪丸橋忠彌の大獄を治むる等事お臨みてたちどころお其の
 宜きを得るの取計をなす器量あり然かも徳川家よ無二の忠信を盡く
 せし閣老中第一の人たることを見るに足れり左れば智慧伊豆と稱せ
 らるゝほど才智長けたる人なれども平生その勤めお怠らずして律義

なりしこと信綱その屋敷お在るときも登城の時も裏付の上下を着たることなりしとぞ常々人又語りていれける人の心の衣服も依て變へるものなり出仕して恭敬の心なくして忠勤を盡くすことかたしまづ衣服より心をつけて恭敬を忘るべからず我に於て斯くの如くつとめざれば忠勤をなしがたしと云はれたりと亦以て其の平素言行の忠信なる一斑を見るべきなり

〔六〕 耐忍勉強に習熟すべき事

凡そ幼少の時より身體を保養し食物等お心をつけ所謂衛生の事を知るをよしとす然れども亦徒々風雨を厭ひ寒暑を懼るゝのみあてり何の修行も稽古も爲し遂ぐべうらず左れば幼なき時より耐忍と物事に堪へ忍ぶこととも慣れ勉強とつとめはげむ事にも習はざれば壯年に至りてもなまけ者となり何の用をも爲さぬものとなるべし

小川藤吉郎といへる人の泰山と號し儒學を以て名を世に知られたる人なるが幼きとき書才ありて字を書くことを好み其の手本は司馬溫公の勸學文を記したるものなりければ手習をなすつゝ稍その文意を解して書を読むことの人益あるを知り山本北山の門に入り史記の素讀を爲し項羽本紀お書い以て姓名を記するお足るのみといふ語あるを見てよりの習字を止めて専ら書を読まんと志させしに僅々七歳の時なりしと予さてそれより藤吉郎の北山の塾お日々通學するお如何なる烈とき雨風の日といへども一日も休みたることなし或日大ひ雪降りければ一ツの大笠を被ぶりて塾へ赴く途中おして雪の笠の上へ降り積り笠の重し足元も雪のため意の如くならざれば遂お顛び蹶きて痛く膝も傷つけたり往來の人之を慰れみ勸めて家へ歸らしめんとすれども藤吉郎敢て可らず遂お痛みを忍びて業を受くるこ

と平日の如くなりしと
 若し夏の日の熱きを厭ひ夜に入れば涼しけれども蚊の來り刺すを厭
 ふが爲も勉むること能はずとし冬の日の寒きを懼れて火を擁するの
 みならば亦勉強すべき日あること少かるべし雨風をも厭はず暑さ
 寒さをも堪へ忍びて學問あても藝術あても勉め勵む事をなさしれ
 ばその身體ますます筋緩く骨軟かふして用を爲さざる者とならん西
 洋の諸國が今日文明を以て世界に誇り富強を以て宇内を稱せらるゝ
 もみなその國人が勉強忍耐の力の集りて大成したるを以てなり我國
 をして東洋の英國と稱せらるゝほどの文明富強の國とせん之を今
 の老年の人に望むべからず今の幼童たり少年たる輩が勉強忍耐の力
 を集め成してこそその望みを遂ぐべきことなれば左れば余の深く今の
 年若き人幼き人に物事堪へ忍び且つ勉め勵むと云ふことに習熟せん

ことを望むところなり

〔七〕 節儉を貴ぶべき事

今を距る十四五年前或新聞紙に西洋の新聞紙上に父の許より或學校
 へ寄宿せる子と贈りたる書簡を譯して載せたるを見たりし今その
 新聞紙の名もその譯文もみな忘れられたれども其の意味の僅りに記憶
 存すれば茲も其の意を摸擬して試み一文を綴らん

郵便を以て申入候其許も無事あて學業を勵まるゝ由余が喜び之
 過ぎず當方にてても一同無事なれば安心せらるべし切此度學資金
 三圓小爲替にて相送り候へば最寄の郵便局あて請取らるべく候毎
 度申送る事ながら父が手許も左まで饒かならず殊も當節柄不景氣
 あて金融も宜しからず其許の兄や妹の衣裳も新た拵へがたく今
 年の一月も洗張の物にて濟ませたる程致し其許への學資金何

事を置きても送くらざれば半途に退學さするも残念なりと其許の母ども相談の上にて送り遣ひし候事なれば一錢たりども無益な遣ひすて筆墨紙など無くて叶へぬ品のみ買求め餘の月俸の内入として幹事へ預け置かるべし若き者の考よて二圓や三圓の金何とも思ひぬものなれども中々二三圓の金を得るも容易あらざる辛苦を要するものなり左れば一錢たりども漫りに費やすべきよあらず試みよ思へ茲に三圓の金あり之を以て葉書を買へば函館江差より長崎島原まで三百人のうけ離たる人々も用事を辨ずべし郵便切手とするも百五十人お書状を銘々お贈くることを得べし之を以て家を借りて住居する借家料とすれば九尺二間といふより少し手廣き家お六ヶ月の間住むことゝ容易なるべし之を以て米を購なへば一人おての三ヶ月以上飢お苦む憂なりらん之を以て衣裳を求む

れバ二た子編み金巾の裏付たる綿入二枚を造りて寒さお向ふより暖氣になるまで着つゝくるも猶破れざるべし之を以て豫約出版の書を買ひ英和字典一部を得て三年五年の重寶することを得べし之を以て旅費とすれば十日ほどの間に見ず識らぬ他人が親類や友達に如くおもてなして宿泊に差支なきことを得せしむべし左れば返すくも學資の金を無益の飲食その他贅澤の事お費さる様よくく心かけらるべく候其許の郵便局おて請取る事すら面倒なりと思ふくらゐならん親の手許よて幾多の苦勞の凝りかたまりて此の一枚の爲替手形となりたるものなりと思ひれよ月々二圓五拾錢の月俸と五拾錢の小遣を一年も積りて算すれば三拾六圓なり其許も知る如く田舎おて此節先祖より持傳へたる田地一反を賣拂ふとも三拾圓も買ひんと云人のなきぞ左れば斯言を忘れずひ

たすら節儉して學問も勉強致さるべく候云々
 此の長き手紙みて大抵少年諸君の節儉も心をどいむるの必要を見る
 お足らん猶ほ昔しの人貧乏して學志したる人の事多ければ其の
 傳を讀み又其の事を聞けり大に節儉を重んずる心を生ずべし今一
 例を擧げて云い細井甚三郎(紀平洲と云)と云人の尾州侯も仕へ有名
 の儒者なり十七歳の時京都に遊學せんと欲して單身おして京都も趣
 ふく垢つきたる衣を着弊れざる帯を結び粗食を食ひ學資を費すこと
 少しその父金五十兩を與へて其の學資お供したり京都も在ること一
 年十兩を費し餘りの四十兩を以て書籍數百卷を購ひ得たり歸るに及
 び馬二匹も駄して還りたり是等の父兄より學資を贈くられて學問
 する人の手本となすべし
 斯くいふといへども金錢の至寶なりとて之を重んじ之を費ぶの餘り

之を得ることを喜ぶの念甚しければ廉耻を破ぶるものなり凡る人に
 して廉耻の心なければ極めて人に卑しめ辱かしめらるべし廉どの何
 ぞ取べくして取らざるところあることなり耻どの則ち取るべくして
 取るのよけれども斯くてい耻となること云ことを知るの類もて廉耻の
 心薄き人の才能ありども人々嘲けり辱かしめらるゝものど知るべし
 是亦幼年より其心得なくいあるべからず
 松崎左吉の白圭と號す(享保のころ世お知られたる學者なり)芝田町な
 る篠山侯の邸お生る甫め五歳兒輩と遊嬉して田町八幡の祠邊お在り
 し時三人あり來て八幡祠お詣す此の輩々左吉の容貌尋常の小兒お異
 なるを愛し囊中を探りてそのころ通用の拾文錢二枚を與へたり左吉
 謹みて之を受け直ち又祠壇の前なる賽錢箱に投げ入れければ三人の
 者い大い愧ぢて立ち去りたりと五歳の小兒おして大人をしてその

面を赤くせしむ况や十歳以上となりたる者をや金銭をみだりお費す
 ことをせず之を費ふことを知るべし故なくして金銭を得ることを好
 むべからず金銭の世の通實にて貴きも相違なし然うれども之を用ゆ
 るより方りての人より受くべき道理なくして之を受くるの貪ぼるとい
 ふものあり取るべからざる者を取らば騙取となりて刑も觸れぬべ
 し左れば之を費すことも容易も費すべきものあられれば又之を得
 るものを得るたけの正當の譯柄なくして一錢たりども人より請
 取るべきものあらず然るも世の中に金銭の貴きものなりといふ
 ことを知らず父兄より送くるどころの學資をも浪りお費やして果て
 の衣食も窮乏するものあり或の之を費すべきを知りて節儉を旨と
 するの宜けれども人お與ふべきをも與へず施すべきをも施さずして
 倍嗇のそしりを招くありいづれも此の金銭を用ふることその宜しき

お適のざるが致すどころあり左れどもその儉約と倍嗇との差別の如
 きは頭顱の禿げたる人よりも往々間違易きことなれば一朝おはつき
 りと其の區別を立つる能のざるべし唯無益の事も費さずして有用の
 事に費すといふが儉約の仕方無益も有用も決して費さぬといふ
 が倍嗇よて貰ふべき譯もなき人より一錢たりども貰ひぬと云ぐ廉
 耻を知るといふものよて馬鹿と呼べるゝとも欲張といひるゝとも金
 錢だに得れば足れりと思ふに即ち貪汚と名けて人品の甚だ下りたる
 所爲といふべし左れば身おの襤褸どやぶれたる衣を纏ふ人力車夫よ
 ても乗客の忘れたる財囊を跡より追かけて渡せば奇麗な男なり律派
 よ紳士と見ゆる人おても五厘か一錢を吝まば汚穢き人といふ以て廉
 と貪との雲泥の別あることを知るべきあり

〔八〕 師友お乏きをのみ歎ずべからざる事

良き師匠を擇ぶと云こと、種々の書籍の入用あること、學び得たる
 ことを互ひに相切磋するため、良き友を求むること、此の三ツがそ
 ろいざれば學問の律派に出來ざるものと思ふこと、お就てのお話なり
 學問をするよ、良き師匠も良き書物も良き友達もまことよ、必用のもの
 よて師匠も乏しく書物も少なく友達も爲めよなるほどのものなく
 て、學問も自然果敢とらず固陋にながれ易き憂ひなきよしもあらず
 然かしながら此の三ツがそろいぬば、學問の出來ぬものと思ひて惜べ
 き光陰を空しく費やし、學問のせねばならぬものど知りつゝ、師匠に乏
 しければ良き師匠ありて後學ぶべし、書物を充分よ買調へたる上にて
 勉強すべし、良き友あまた集りたる所、往きて後勤むべしとするは、是
 れ良き師匠なきと書籍よ乏しきと、友達の爲なるものなきとを言前
 として、學問をばげむことを怠るものといふべし

試みに考へて見られよ、良き師匠あり書籍にも不自由なく互に切磋す
 る朋友も多きところ、田舎の稀なりとの望みのどほりになさんよ
 の東京よ出で、日本よ名を擧げたる大先生の門人となり、丸善とか横
 濱の何商會とかいふ大書林より通帳にて入用の書物を買ひ、天下の奇
 才子といひるほどの少年と交りを結びたる上ならて、學問を勤む
 る時どて、いあらざるべし、學問の左様よ六かしきものなれば、所詮昔し
 の大名今の華族の家よ生れたる人よてもあられば、學問を爲すこと
 の出來ぬ筈あり
 然るよ昔しより名ある大學者の富豪の家より出でたること甚だ稀よ
 して、貧賤の家より出たる人多く、又東京大坂等の如き大都會よ生れて
 大學者となりたる人の稀よして、田舎の邊鄙に生れたる人よ多し、左れ
 ば貧しき家よ生れたる人の第一よ、良き師匠よ就きて學ばんとするも

東脩月謝を出すことも容易ならず良き書籍を買ひんとするも兎角親の手許が不如意なれば心に任せず斯かる貧窮の家お住むものなれば其の交る所の友とても爲に在るほどの良き友とていあらざるべし
 ろれも東京大坂等の都會又住むものならば多少の便利を得ることも
 あるべきなれども邊鄙にして富める人すら不自由なることのみ多き
 に況して貧しき家又於てをや然るおその不自由不便利なる田舎邊鄙
 お長なり師匠もなく書物も持たず友だちの共に學びの道を研究する
 者もなき者おして却て都會又住むところの富む家の子弟よりも學問
 の果敢どりて遂に大都會に出て、學問を以て門戸を張り何某先生
 と稱せられ多くの弟子を持ちたる例めし先哲叢談などいふ書より
 數ふるよ違まあらざるほど多し其中又於て一二を擧ぐれば水戸藩の
 儒士安積覺兵衛の澹泊と號し大日本史の編輯又わづりたる者多き

中澹泊の功最も多しといへり博學能文の聞え高かり覺兵衛年十三に
 して江戸に來り朱舜水の門に入り居ること三年痘瘡又罹りて郷里よ
 歸へり故に親しく句讀を受けたる者僅お孝經小學論語のみなり
 しといへり又彼の徂徠といふ先生の徳川家の政權を執りしより御一
 新まで幾んど三百年の間多くの學者先生もありたるが其の中にて指
 を第一お屈するほどの大家なるが其の幼きころの父と共上總の海
 濱にかすりなる生活をなしたれば師匠もなく友もなく書物とてい唯
 大學諺解といふ書一部のみなりしとぞ然るも徂徠の幼きよりその書
 を讀み其の意味を解き明すことに心を潜め廿五歳にして父お隨て江
 戸に來り芝の増上寺の近邊又住みたるが家貧しくして三度の食餌す
 ら充分ならず少年ながらも行ひ正しく日夜に書物を讀みてひもじさ
 をも忘るゝほどなるお感心して近所の豆腐屋の親爺が可愛相なりと

思ひ時々豆腐の糟を贈り與へて飯米の代りとなさしめたりと斯る貧しき暮しよて師も友もなく書物を買ふことも出来ざりし人が今日までも徂徠といへば誰知らぬ者もなきほどの大儒となりしあわらずや
 特り我國のみならず西洋にても亦同一の例多しと見え是まで全歐洲の議論を一變したるほどの大家先生よして有名の大學校の卒業生たる人のなしといへり此例も反對して都會に住し然かも學資も乏しからず良き師匠良き友達に日本のみにて不足なりとて海外に赴きて多年留學したる人にて歸朝の上も左まで學問を以て世に稱せられず識見とても左まで高くなりしとも思われざるも亦少なからざるや
 又見及べり是いつまり如何なる譯ならんと考へて見られよ
 余が考ふるところありての學問といふものも學ぶ志といふものが師匠よりも書物よりも朋友よりも第一あなくては叶はぬものにて學ばんと

する志すらわれば良しや師匠も乏しくとも書物を買ふこと能はざるほどなりとも益ある友なくとも學び得ずといふことあるべからず
 此事お就て一ツのお話しを致さば沃土の民に逸し瘠土の民に勞すといふことありて土地沃かよして作物の收穫多き所の百姓に左まで骨を折らざるも活計を立てること安く土地瘠せて作物の收穫寡きところの百姓に最も耕作も骨を折らねばならぬそこで一應の考へにて土地の饒かなるところの百姓に富み瘠せたる田地を耕す百姓に貧しき筈なるも却て豊饒の地も貧き者多く瘠せたる田地を持つものも富む者の多き瘠せたる土地を持つ百姓に油断なく農業も力を竭くし饒かなる土地を持ちたるものも兎角怠りがちとなるからの事なり是と同例にて世界に於て氣候の最も寒き國あり甚だ熱き國ありまた寒さと暑さと相半ばする國あり之を寒帯熱帯温帯の三ツに分つこと諸

君も知らるゝ如しさて日本ていへば北海道の如く寒き所お住むもの
 の寒むさを凌ぐために温帯の地おて衣服二枚を重さぬれば凌ぐべ
 きものを三枚も四枚も被ざれば寒氣を防ぐことあたはず夜具とても
 その通り温暖の地方おて一枚よても寒中を過すべきお二枚も三
 枚もあくていならずその上冬季の毎日の様お雪降りその雪の積りて
 軒よりも高くなるほどなれば屋外お出でて働くことも容易ならず之
 を熱帯地方の冬おても雪を見たることなく綿入れなくとも寒きを覺
 えず寒中にては田畑お出でて働くことも出来漁師の河や海の氷を結
 ぶ憂ひもなく何事も便利なる地方に較ぶれば餘ほど寒帯地方の民よ
 りも富む筈なるお却て然らず印度の如き熱帯地方にて冬の夜よても
 猶ほ螢の飛ぶを見るといふほどにて土地の豊饒なることお世界よ比
 類なきほどなりと聞く然るお其國民の貧しくして別お食料の蓄へな

くども木の實などを採り食ひて飢を凌ぎ衣裳の膚を掩ふたけにて別
 に寒さをふせぐよすがとても不用おれば住居する家も亦煉瓦造硝子
 窓を用ひざるも寒を防ぐお充分なるところより怠惰に流れ易きガ
 致すどころなりといへり之よ反對して彼の露國の如き英國の如き富
 強を以て世界お稱せらるゝところの國の如何なる國ぞといふに土地
 の世界に於て瘠土といふ方に屬し氣候の寒帯に近く或は全く寒帯に
 在り衣食住とも印度の如く勞せずして寒を防せざる耕へさずして食
 を得るの便なし然るお其國民の印度の如く貧しき民の少きのみから
 ず世界よ向て其の富に誇るべき大商家大製造家等多きお天然の氣候
 といひ土地といひ怠惰よて生計の立ちがたきよりしてその國民の
 勉強と忍耐との性質お富みたればこそ能く如此を致せるものなるべ
 しと思はる其等の例を以ても學問を爲さんとする人おまづ師匠お乏

しきことも友達に乏しきことも書籍不自由なることも憂ひずして
 學ばんとする志を起すべし學ばんとする志し堅からずして唯田舎
 居ての師友も書籍も乏しければとて聊々の學資を父兄よりねだ
 り取て東京へ出て東京へ出たらば忽ち大學者となり立身出世心りつしんしゆつせこころのま
 なるべしといふ如く妄想する少年も少なからずさて田舎より東京
 へ出て見ればその耳も觸れ眼も遮るところのもの少年子弟の爲
 へ害こそあるべけれ益なきものも多ければ故郷を去るときに業若し
 成らずに死すとも歸らずといふほどの意氣込めて出たるものも二月
 が三月半年が一年と都會の空氣を呼吸するも隨ひて初めの志の漸く
 灰の如く冷かとなりその内へ學資の漸く竭き長き文句の書簡を認め
 郷里の父兄へ金を送くらんことを請ふも限りあることなれば知音朋
 友まで借り盡し下宿屋の拂も出來ず大家先生へなり勅任官ともなら

んど思ひし豫期の全くはづれて餬口のためにはむを得ず三圓か五圓
 の月給を身を委ぬるの場合に至るものも今の少年の例少あり
 らずと思はる是抑も東京へ出て、大家先生の門へ入れれば忽ち成業す
 るものゝ如く空想するが誤りなり古人の詞も羽毛未だ成らざる以
 て高飛すべからずといふことわり雛の羽の未だ充分あらざるもの
 高飛をなすとき羽の力竭きて忽ち他の鳥獸の爲へ噛殺さるべし五
 目ならべ四ツ目殺しならて知らざる者が急本因坊弟子入をな
 したりとて三五ヶ月の勉強して初段二段の碁打となりなることを得べ
 からず若し能く速か上達するものあらばそれ尋常の例とすべか
 らず天下の奇才ともいふべし學問も亦た然り左まで學ぶ所もあらざ
 るものゝ東京へ指を屈する大家先生の愚り洋航してスペインサーどか
 スタインどかいふ宇内に指を屈する大先生の門人となりたりとて俄

かゝ學問智識の上達するものゝいならず左れば孔子ほどの聖人せいじんも從したがひて其の門に遊ぶもの三千人ありけるが身六藝げいも通ずる者七十二人と見えたれば残りの二千九百二十八人の六藝げい全く通ぜざりしと相違さうわいあし釋尊しやくそんも十萬の弟子ありといへどもまづ重おもなる者の五百羅漢らかんとすればまづ千分の五あらで四果くわの聖者せいしやなかりしと謂ふべきか又良よき書物を澤山持てば學者となりし如く思ふもあれども若し然るときは書林の主人しゆじんのみな學者となる筈なり師匠ししやうの世界第一せかいだいいちあても朋友ほうゆうの天下てんかの奇才きさいのみありとも書しよの庫中こちゆうも充滿じゆうまんするとも學問がくもんも勉強べんきやうすることことを怠りて學者となるべき筈はずあし左れば第一だいいちに學まなばんとする志こころざしを堅くして爲し得るだけの勉強べんきやうを爲して怠ることなれば筈はずを負おて師しを求めずとも學業がくげふを成就じゆうじゆするも足る材料ざいりやうを精神せいしんも蓄たくはふることを得べし之を喩ふるに少年せうねんの時の勉強べんきやうの家いへを建てんとするものが材木ざいもくを

買かひ集あつむるが如く又木挽こびきその他の職工しやくこうが之を削けつるが如し而して最後さいごに仕上しあげ鉋かんなといふを用ゐるが即ち大都會だいにくわいも出で、四方はうの學士がくしと交まじり其の學まなびたる所ところを大いおほい發揮はつぱいする場合ばあひも似たり然るを伐取きりとりたるばかりの材木ざいもくを普請場ふしんばも持込み丸木まるきに向て仕上しあげ鉋かんなを施ほこさんとするの誤あやまりなり故ゆへにいふ師友しいうに乏せしきを歎たんじて學問がくもんも勉強べんきやうせざるの非ひなり郷里きやうりも在りて勉強べんきやうする所ところもなくして大都會だいにくわいも出で、大おほい名なを成なすところあらんとするの猶非なほひなり少年諸君せうねんしよくんよ決して羽毛うもの未だ成あらざるに高飛かうひを羨うらやみ都會とくわいも來りて下宿屋げしゆくやの窮鬼きゆうきとなること勿なかれ既すでに官立大學くわんりつだいがく校かうの入校試験にゅうかうしけんも應おつずるほどの學力がくりきを養成やうせいし得て都門ともんも入いる人ひとを除のぞくの外ほかに師友しいうも不自由ふじゆうなる田舎ゐなかも在りて勉強べんきやう刻苦こくくするも敢あへて妨さまたげなきものといふべし

少年教誨終

明治十九年三月十七日版權免許
同年四月出版

定價金拾錢

編輯兼出版人

福島縣平民

于河岸貫一

東京本所區外手町
三十九番地寄留

賣捌所

明教社

東京々橋區卅間堀
一丁目二番地

同

鴻盟社

同京橋區南鍋町
一丁目六番地

發兌所

新報社

同本所區外手町
三十九番地



2K-30

東 京 圖 書 館

和 書 門

類 函 架 號 冊